

研修会報告

令和 5年 12月 9日

文責： 岩木啓太

研修会テーマ「基礎から実践まで! ABO,RhD 血液型検査実技研修会」

開催日時 令和 5年 11月 25日 (土) 14:00 ~ 16:30

会場 東北医科薬科大学 メディカルトレーニングセンター

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 16 名 入会申請中会員 0 名 非会員 0 名 賛助会員 0 名 学生 0 名

合計 16 名

実技研修会：試験管法による ABO,RhD 血液型検査

内容

宮城県臨床検査技師会輸血検査部門として 4 年ぶりに実技研修会を開催した。試験管法の ABO,RhD 血液型検査を実技研修テーマとして、試験管法の手技の基本から日常検査で遭遇しうる予期せぬ反応を示す検体について、模擬検体を用いて実際に取り組んだ。

試験管法の手技の基本としては、試験管のラベリングの注意点、赤血球浮遊液の調製方法、凝集判定の取り方、検査結果の記載の仕方などを重点項目とした。参加者には一度実習指導委員による模擬を見てもらい、各項目の注意点について説明を行った。その後、参加者が実際に実技を行う過程では、普段の業務で行っている方法との違いや、検査を間違えないための工夫の仕方、必ず守った方が良い手順と変えても良い手順について、実習指導委員と意見交流を行いながら実習を進めた。日常検査で遭遇しうる予期せぬ反応を示す検体としては、RhD 陰性検体、冷式抗体保有検体を用意した。各々の検体について、必要な追加検査や様々な対処法を実際に行ってみるという形式で研修会を進め、D 陰性確認試験や室温と 37℃の温度条件下での反応性の変化などを行った。また、参集型の実技研修会という形式の特性も活かし、普段の検査、業務に関する情報交換や疑問に感じていることを実習指導委員や参加者間で意見交換する様子も活発に見られた。

今回の実技研修会では、実際に手を動かすというコンセプトを重視し、web 形式の研修会では言葉や文字でしか学習できないものを、参加者には体験という形で学んでもらった。

日常検査では中々遭遇しないが、検出した際には適切に対処すべき結果を示す検体への対応は、一度経験することで理解度が大きく飛躍すると考えており、本研修会が参加者の普段の業務に活用されるシーンがあることを期待している。